

平成29年度自己評価シート（中間評価）

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	柝磨 昭孝	☎・定・通	☎・分
----	-----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 生徒の主体的な学びを促す授業づくりの推進と業務改善の推進 ①⑦					
<p>生徒が主体的に授業に参加するとともに、深い学びを実現している。</p> <p>【指標】 生徒の授業評価（4段階評価）4段階評価のうち4段階の割合【新規】、ICEモデルを軸とした本質的な問いの創造と問いの構造化による授業の実施率【新規】、定期考査におけるEレベル（本質的な問い）評価問題の出題率、Eレベル評価問題の質的評価（ABC3段階のA評価の割合）【新規】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で、ICEモデルを軸とした授業を行うとともに、ICEルーブリックに基づくEレベルの評価問題の質を高める取組を強化する。 活用コアスクール推進会議を定期的開催し、学習者基点の学びの創造を目指し、本質的な問いを核とした問いの構造化を組織的に進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートによる4段階（よくあてはまる）の割合は、目標の70%に対して55.6%であった。 ICEモデルを軸とする授業構築の実施率は、目標の80%に対して85.7%であった。 定期考査の活用問題出題率は、目標の10%に対して8.09%であった。 活用問題の質的評価（A評価）は目標の50%に対して61.8%であった。 	教務部	
<p>教職員が業務を組織的に遂行し、創意工夫を生かし、業務の改善に取り組み、業務の質的な向上を図っている。</p> <p>【指標】 作業仮説の設定とエビデンスに基づく評価（アンケート結果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ダブルルーブラーニングの定着を図り、質問会議によって問題の共有化を強化し、その解決に向けた議論の活性化により質を向上させる。 	B	<p>「生徒と向き合う時間の確保」及び「教職員のモチベーションの向上」に向けて取組計画を策定した。</p>	校務運営会議	

【評価結果の分析】

- 第1回授業評価アンケートの結果から、授業に対する肯定的な4の評価【4段階の割合（よくあてはまる）】が目標の70%に対して55.6%と下回った。生徒の授業に対する肯定的評価（4と3）は、例年どおり良い評価であるが、4の割合が目標より下回っていることは、より「面白さとわかりやすさ」という観点から構築する授業を意識する必要がある。（教務部）
- ICEモデルを軸とする授業構築の実施率は85.7%と目標値を達成している。全教職員が概ねICEモデルを意識して授業改善に取り組んでいることが分かる。（教務部）
- 定期考査におけるEレベルの出題率は、目標の10%を下回り8.09%であった。また、定期考査の質的評価（A評価：CEレベルからEレベル）は、目標の50%に対して61.8%であった。定期考査における活用問題の出題は概ね定着しているが、今年度は質的レベルアップを図るために質的評価を意識した取組を進めている。（教務部）
- 5月に実施した第1回業務改善モデル校アンケート集計では、「生徒と向き合う時間」が確保できている割合が52.9%で全日制全体の平均値よりも11%低い。「生徒と向き合う時間」の定義を確認するとともに、分掌間での業務の連携を強化し、効率よく業務が行われるようにする必要がある。また、「日々の業務の中で充実感を得られている」と回答した割合は77.8%で、全日制全体の平均値よりも3.8%高い。質問中心の会議をより積極的に行い、教職員間のコミュニケーションの機会を増加させる必要がある。（校務運営会議）

【今後の改善方策】

- 今年度活用コアスクール指定校3年目となり、より組織的な授業づくりの取組を推進している。特に、ICEモデルを軸とした授業作りや活用問題の定期考査出題については、全教職員がそのデザインを考案し、各教科会で分析・検討をしている。組織的な取組は概ね定着してきたが、活用問題の質的な深化が見られるか、また単元の授業展開と活用問題の出題とがリンクしているか考察していきたい。生徒に対して「学ぶ面白さやわかりやすさ」をより実感してもらうためには必要な取組であると考えている。具体的には、10月に実施する公開研究授業で外部からの指導・助言者の指導を受けながら、全教職員が同じ討議の柱「生徒の主体的学びの構築・単元の授業展開と活用問題とのリンク」をテーマに研鑽していきたいと考えている。（教務部）
- 業務改善に向けて会議のあり方の改善や既存の取組の縮小や廃止など、スクラップ・アンド・ビルドを行うとともに、行事等において分掌に関わらず多くの教職員で協働する雰囲気醸成していきたいと考えている。（校務運営会議）

2 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実 ②③⑤					
<p>自己の生き方、在り方を考え、進路目標を設定し、その第一希望の進路実現に向け努力する生徒を育成する指導がなされている。</p> <p>【指標】 国公立大学現役合格者数、大学入試センター試験受験者のうち選択した類型で全ての教科・科目を受験した生徒の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の進路検討会議及び模試分析会を計画的に開催し、担任や教科担任による生徒への指導を充実させるとともに、受験に向けた意識を高めるための組織的・計画的な指導を展開する。 各学年の進路だよりをタイムリーに発行し、生徒の進路意識を高めるとともに、保護者への情報提供を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生315名中314名が、5教科型で大学入試センター試験に出願した。 進路情報のタイムリーな提供など、進路に対して高い意識をもたせる指導を継続している。 	進路指導部	

【新規】1年1月模試における国数英総合偏差値54以上の人数、2年1月模試における国数英総合偏差値54以上の人数	・生徒の学力分析を進め、各教科等における適切な目標設定や、指導の充実を図る。 ・模試返却後、課題のある生徒に対する教科担当者面談等を充実させる。	B	模試分析を、学年・教科で共有することにより、教育内容や教育課程にフィードバックする取組を続けている。総合54以上：1年生49人、2年生70人であった。	
本校の教育活動を、中学生及び保護者等に対して、定期的・効果的に情報発信している。 【指標】 オープンスクール参加者数、オープンスクール参加者の肯定的回答率【新規】、HPの更新回数	・オープンスクールを年2回開催するとともに、昨年度改善を図った体験授業や生徒による進行・説明などの更なる充実を図る。 ・中学校訪問及び説明会を充実させ、本校の教育方針や特色について積極的にPR活動を行う。	B	7月のオープンスクール・授業体験会には994人の生徒・保護者が参加し、全プログラムで95%以上の肯定的評価を得た。	総務部
	・最新の教育活動を発信するため、分掌間の連携を深め、できる限りタイムリーかつリアルタイムでのHPの更新に努める。	B	本校の教育活動、行事、部活動等の内容をタイムリーに更新することができている。	
	・理数コースの活動内容を紹介するパンフレットを作成し、中学生に配付するなど、理数コースの認知度アップに向けた取組を行う。	B	昨年と同様の配布物を踏襲しつつ、中学校訪問等で認知度を上げる努力をしている。	総務部 理数コース
探究コースとして、理数コースの授業が展開され、生徒が理数コンピテンシーを発揮できるよう指導がなされている。 【指標】 理数コースの教育活動の深化に関する質的評価（ABCD4段階のA評価の割合）【新規】	・探究に係るコンピテンシーを育成するためのプログラムを開発・実施する。 ・高大連携を推進するとともに、「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」を活動フィールドの柱に位置づける。	B	「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」において、1年の課題設定時により具体的に仮説設定を行えるように取り組んでいる。このことにより、生徒が理数コンピテンシーを育成するための一助としたい。	理数コース

【評価結果の分析】

- ・大学入試センター試験の出願については、315名中314名が5教科型で出願した。3教科以上での出願は、今年度生が99.7%、昨年度生が97.4%、一昨年度生は96%であった。1・2年生の国数英の平均偏差値54以上については、7月実施の模試において1年49人、2年70人であった。進路検討会議及び模試分析会議の内容を踏まえ、個別指導を一層充実させる必要がある。（進路指導部）
- ・進路検討会議については、9月までに3年では2回、1年では1回、進路検討会議を実施した。2年の進路検討会議は12月に実施する予定である。模試分析会については、成績が出た後のできるだけ早い段階で、校務運営会議・学年会・進路指導部会・教科主任会議へ結果を報告し、適切な対策を講じている。1学年では、ベネッセのFINEシステムを利用して国語の成績変容を学年会で共有するなど、新たな取組を進めている。進路だよりの発行については、9月までに1年では5回、2年では2回、3年では6回を発行し、各学年各時期に応じて必要な情報を提供している。（進路指導部）
- ・7月のオープンスクール・授業体験会は、中学生の授業体験を中心に据えて、生徒会、部活動の生徒が主体的に進行、案内をするようにした。その結果、授業体験の参加者は、昨年度の580人から690人と100人増加した。アンケート結果も以下のようにいずれも高評価を得ている。「授業体験会」については、中学生、保護者ともに98%の肯定的回答を得た。主な感想としては、〈中学生〉授業が楽しくわかりやすい。カラーコピーのプリントがわかりやすかった。祇園北高校にはALがある。勉強に集中できる環境だと思った。〈保護者〉充実した授業でした。また、「学校説明会」については、中学生98%、保護者95.6%の肯定的回答を得た。主な感想としては、〈中学生〉放送部の方の声が凄くきれい。紹介VTRの完成度が高かった。吹奏楽部、書道部のパフォーマンスが良かった。説明のほとんどを生徒がしていて自立していた。「部活見学」では、中学生98%、保護者95%の肯定的回答を得た。主な感想として、部活動が盛んで楽しそう。先輩と後輩の仲が良くて懂れる、などであった。
- ・本校HPに各行事や部活動の内容に加え、各種講演会や姉妹校交流などの教育活動の内容も画像とともに、タイムリーに更新できている。更新回数は54回（9/21現在）であった。また、HPのデザインも改良し、わかりやすいものになっている。（総務部）
- ・コンテンツベースの学びからコンピテンシーベースの学びへの移行を念頭に、昨本年度から理数コンピテンシーの育成に係る取組を開始した。とりわけ、本校が「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」の指定校であることを重視し、当該プログラムをコンピテンシーの育成に係る研究実践の柱として展開している。特に、今年度は仮説設定を理数コンピテンシーに関して、科学的事象等に係る行動志向から、育成に有効な手立てのモデル作成に取組を進めている。（理数コース）

【今後の改善方策】

- ・センター試験を志願する生徒は多かったものの、3年生の模擬試験での成績は、満足できるものではない。引き続き粘り強い指導を各教科で進めるとともに、生徒には、様々な機会を通じて最後まで諦めずに取り組むことを訴え続ける必要がある。（進路指導部）
- ・7月のオープンスクール・授業体験会では、受付に長蛇の列ができ、暑期中参加した中学生、保護者を待たせてしまった。受付人数を増やし、生徒による受付・案内を充実させ、流れをスムーズにする。体育館の全体行事の時間を40分とできるだけ短くしたが、1,000

人を超える参加者にとって体育館の暑さは耐えがたいものだった。送風機の設置を含め、暑さに対する対策を講じる必要がある。

- ・HPの内容をもっと充実させるためには各分掌・学年会にHP担当を決め、行事等の内容を速やかに掲載できるようにする。また、使用する画像は写真部や担当部署が撮ったものをすぐに使用できるようなシステムを構築する。(総務部)
- ・今後、理数コースの教育活動の深化させるため、生徒へのアンケート等を実施するとともに効果的な指導の在り方を工夫していく。(理数コース)

3 北高生としての自覚とグローバル社会で逞しく生き抜く力の育成, 個に応じた指導や支援の充実 ④⑥				
<p>家庭学習を習慣化させる取組がなされている。</p> <p>【指標】 宅習時間調査での目標達成率(1年130分, 2年130分, 3年260分/日), e-ポートフォリオの活用による主体的・自律的な学習に関する肯定的評価(1年)【新規】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任による生徒への個人面談による指導を強化するとともに, 進路講演会等を通して生徒の進路・学習への意識の向上を図る。 ・e-ポートフォリオの活用を通して, 主体的・自律的な学習習慣を定着させ, やり抜く力を養う。(1年) 	B	<p>FINE システムライセンスの増加, e-ポートフォリオの導入など, 担任による, 面談・三者懇談会等での指導が一層充実したものとなるよう環境整備を進めた。</p>	進路指導部
<p>規範意識の高い生徒を育成する指導がなされている。</p> <p>【指標】 1日平均の遅刻者数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪防止教室や生徒指導講演会等を通して規範意識を高める。 ・校門指導の継続や遅刻回数に応じた段階的な個別指導を徹底する。 ・生徒指導部が担任や学年主任, そして保護者との連携を深め, 生徒の情報を共有し, 個に応じた指導を行う。 	B	<p>1日の平均遅刻者数は1学期終了時点で4.3人である。自転車事故は6件減少している。事故後は警察に届け出て適切に処理できるようになっている。</p>	
<p>生徒の自己存在感を高める取組がなされている。</p> <p>【指標】 主体的に行事や委員会, 部活動, ボランティア活動に参加したと考える生徒の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板等を活用し, 部活動の活動内容や試合結果を披露する。 ・ルワンダへの体育館シューズの寄贈などのボランティア活動を継続・充実させる。地元の小学校・中学校・大学と連携し, 取組の充実を図る。 ・部活動顧問会議を定期的に開催し, 文武両道が可能となるようきめ細かな指導の充実を図る。 	A	<p>ボランティア活動や学校行事が生徒会の主体的な取組みで盛り上がっている。自転車交通安全啓発活動や啓発動画の作成などで地域社会の一員としての自覚が高まっている。</p>	生徒指導部
<p>文武両道を目指す生徒を育成する取組がなされている。</p> <p>【指標】 部活動加入率, 中国大会以上出場部数(運動部 /20, 文化部 /13)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対する生徒指導講話等を充実させ, 文武両道を目指すきめ細かな指導を行う。 ・生徒一人一人が目標をもって生活し, 行動できるよう生徒指導部が中心となり, 顧問及び担任と連携して生徒のやり抜く力を育成する。 	B	<p>この時点で, 女子ハンドボール部, 女子卓球部, 剣道部男子, が中国大会に出場し, 陸上部男子と放送部が全国大会に出場した。部活動加入率は5月時点では1年生88%, 2年生83%, 3年生90%, 全体では87%が部活動に加入している。</p>	
<p>生徒にグローバル化に対応した資質・能力を身に付けさせる。</p> <p>【指標】 海外姉妹校等の交流後のアンケートの肯定的回答率【新規】, エンパワメント・プログラム体験後の主体性・リーダー性に関する肯定的回答率【新規】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外姉妹校等との交流に生徒が積極的に取り組み, アイデンティティの育成につながるよう, さらに交流内容を充実させる。 ・エンパワメント・プログラムを実施し, 生徒が自分の意見に自信を持って発言できる機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10/20~11/2のカナダ姉妹校等との交流に向けて事前学習を充実させている。 ・エンパワメント・プログラムを12/13~17の期間, 31名の参加者で実施予定である。 	総務部
<p>教育相談体制が整い, 生徒及び保護者支援に役立っている。</p> <p>【指標】 生徒・保護者アンケートの肯定的回答率【項目修正】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や教科会等で教職員間の連携を図り, 生徒の実態把握に努める。 ・生徒に対する対応を早期に行うために, 教育相談及びサポート委員会を有効活用し, 支援を必要とする生徒への支援方針と方法を検討し, 全教職員で組織的・計画的な支援を進める。 	B	<p>・臨床心理士による教育相談日を9月から2倍に拡充し, 支援を必要とする生徒・保護者へのサポートを充実させている。</p>	保健部
<p>校内美化活動が組織的・主体的に行われている。</p> <p>【指標】 生徒・保護者アンケートの肯定的回答率【項目修正】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会の活動を充実させるとともに, 日々の清掃活動, 地域連携による合同美化活動を通して, 生徒の環境美化に対する自主的な活動を促し, 校内全体の取組につなげる。 	B	<p>・美化委員を中心として日々の清掃活動を地道に行い, 校内全体への取組となるよう活動を続けている。</p>	

【評価結果の分析】

- ・家庭学習の習慣化については, ベネッセFINE システムをすべての担任が利用できるようにすることで, 面談・三者懇談会等での指導が一層充実しつつある。進路講演会については, 既に1・3年で実施し, 生徒の学習に対する意欲向上に一定の成果を挙げることができ

きた。また、2年では、進路実現に向けた意識の切り替えを目的として、修学旅行後に保護者を含めた進路講演会を11月に計画している。(進路指導部)

- ・総合的な学習の時間に、大学オープンキャンパスでの体験を記録させるなど、授業の内容を補完するための取組を開始するとともに、教科での活用方法も模索している。今後、活用率を向上させるための方法を模索していく必要がある。(進路指導部)
- ・部活動加入率を除いて評価指標は達成可能な状況である。(生徒指導部)
- ・教育相談日を拡充させたことによって支援を必要とする生徒・保護者に対して年度当初と比較してサポートが充実している。
- ・保護者アンケートでは、「本校は、生徒の悩みや相談に耳を傾けている」の質問に87.5%の肯定的な回答をいただいた。また、「本校に体罰・セクハラ相談窓口があることを知っている。」の質問に対して88.4%の肯定的な回答をいただき、これまであまり周知徹底できていなかった項目について数値が上がっている。上昇した理由として、本校のHPに目立つように掲載したことや各教室に相談窓口の掲示を必ず行うことで少しずつ定着してきているものと考えられる。(保健部)
- ・校内美化活動について、保護者アンケートで「本校は、きちんと清掃をしており、環境美化に努めている。」の質問に対して、87.2%の肯定的な回答をいただいた。トイレの臭いについては建物の構造的な問題があり、その部分を解決しない限り今以上の肯定的な回答は難しいと分析している。(保健部)

【今後の改善方策】

- ・宅習時間調査において、望ましい結果が得られていないため、生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組む姿勢を育成することが課題となる。進路検討会議及び模試分析を通して、生徒の状況をより具体的に分析するとともに、効果的な指導の工夫に努めたい。また、学習と部活動の相乗効果で思考力の高い生徒を育成していく指導感の更なる共有化を職員間で図る。(進路指導部)
- ・部活顧問と担任及び学年会できめ細かく連携し、部活動を継続させる指導を行っていく。(生徒指導部)
- ・下半期に向けて、生徒・保護者アンケートを12月に実施し、具体的な問題点を洗い出し、どのような改善策が必要か分析する。また、空中庭園の整備に向けて動き出そうとしており、今年度中に良いものが出来るよう生徒指導部及び生徒会と連携をしながら取組を進めていきたい。(保健部)